



園だより かけはし

キッドワールドこども園
令和7年10月1日

朝夕に吹く風が少し涼しくなり、季節の移り変わりを肌で感じられるようになってきました。しかし、日中はまだまだ暑い日もあるので気温や活動時間に応じてこまめに水分補給をおこなっていきたいと思います。

さて、10月は0・1・2歳児の運動会があります。運動会では、斜面マットを上る、トンネルをくぐる、平均台をバランス取りながら渡る、リズムに合わせて踊る等の様々なプログラムを用意しています。一つ一つのプログラムでは、足を踏ん張る、腕で体を支える、掴む、投げるといった全身を使って生き生きと遊ぶ姿が見られるようになっていきます。

運動会の当日は、普段の遊びの中で経験を積み重ね成長した子どもたちの姿を見て頂けるよう関わっていきますので楽しみにしておいてください。



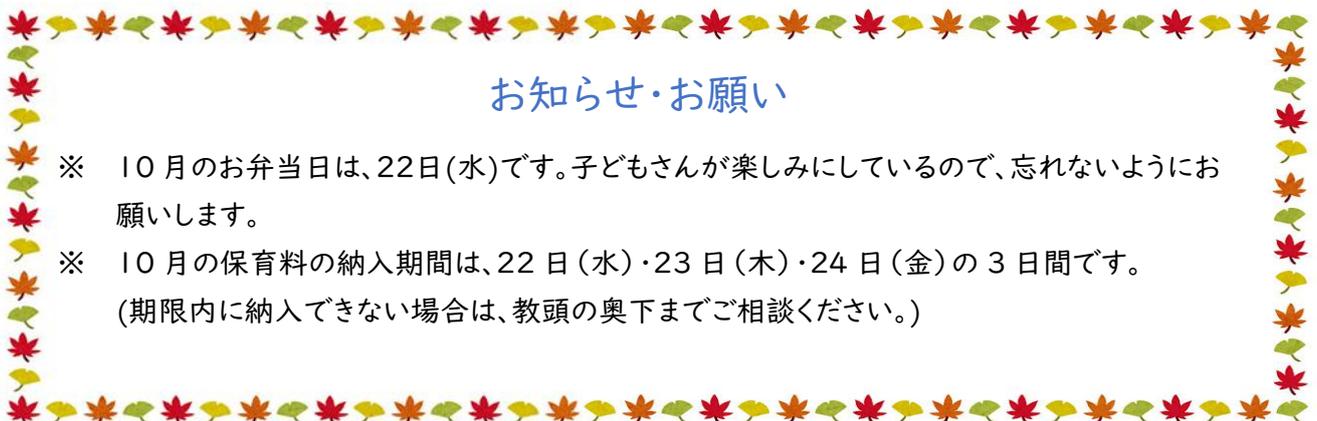
行事予定

日	曜日	園児に関すること
1	水	身体計測(5歳児)
2	木	身体計測(2、4歳児)、0歳児運動会リハーサル
3	金	身体計測(1歳児さくらんぼA組)
7	火	身体計測(3歳児)、1歳児運動会リハーサル
8	水	身体計測(1歳児さくらんぼB組)
9	木	0歳児運動会
15	水	1歳児運動会
16	木	健康診断、身体計測(0歳児)
17	金	2歳児運動会リハーサル
22	水	弁当日、3・4・5歳児運動会公園練習
23	木	2歳児運動会
24	金	避難訓練
29	水	誕生会
30	木	3・4・5歳児運動会公園練習



お知らせ・お願い

- ※ 10月のお弁当日は、22日(水)です。子どもさんが楽しみにしているので、忘れないようお願いいたします。
- ※ 10月の保育料の納入期間は、22日(水)・23日(木)・24日(金)の3日間です。(期限内に納入できない場合は、教頭の奥下までご相談ください。)



子どもが見る大人の世界と大人の受け止め

牧野 桂一

今回は、前回説明することができなかった、「子どもが見る大人の世界」ということを踏まえて、実際に子どもたちと接する私たち大人が気をつけたいポイントについて説明してみたいと思います。

一番目のポイントは、「子どもと目と目を合わせて話すこと」です。特に年齢の低い乳児の場合、子どもたちは安心感や信頼感をスキンシップやアイコンタクトから感じ取り、そのことが子どもの育ちを支える情緒の安定にもつながっています。大人でもそうですが、相手がこちらの目を見て話を聞いてくれないと理解してくれているかどうか心配になります。幼い子どもは不安が強いと泣きだしてしまうこともあります。したがって子どもと話す場合には、しっかり目と目を合わせてアイコンタクトを取ることが大切です。

ここでひとつ気をつけておかなければならないことは発達障害や自閉的傾向のある子どもの場合には、目を合わせることが辛くてできない場合があります。その時は子どもを怖がらせないように目と目を合わせることが避け、子どもが自分から目を合わせてくれるようになるまでゆっくり待つようにします。

二番目のポイントは、「子どもの目線に合わせて話すこと」です。目線の高さについては、子どもたちの縦の方向の視野は70度、横の水平方向の視野は、90度と大人に比べ狭くなっています。そのため子どもたちと関わる時には、子どもの視野に入るように配慮することが大切です。

子どもは頭の上から言葉をかけられるとその声に威圧感を感じてしまい信頼感を作ることが難しくなります。そこで、子どもの話を聞く時や話しかける時には、子どもの目線まで屈んで子どもと目を合わせて話をし、てあげるようにします。

三番目のポイントは、「話をする時の目の表情にも子どもが見ていることを意識すること」です。「3歳児が大人の顔のどの部分に注目しているか」を追及した研究によると「目、口、鼻」のうち最も注視する時間が長かったのは「目」であったといえます。子どもとの信頼関係を作るのに笑顔がとても大切だと言われていますが、この笑顔の場合にも、よく口角を上げることが大切と言いますが、3歳児の場合は「目の表情」を柔らかくすることの方が大人の心が伝わりやすくなると言います。「目は心の窓」とも言われていますので、心を表すには目の働きがとても大切になるようです。子どもと接しながらつい辛いことを気にしていたり、心配事を抱えていたり、疲れていたりするとその微妙なニュアンスが目を通して子どもに伝わってしまうこともありますので、子どもと向き合うときには十分に心の状態を整えておくことが大切です。

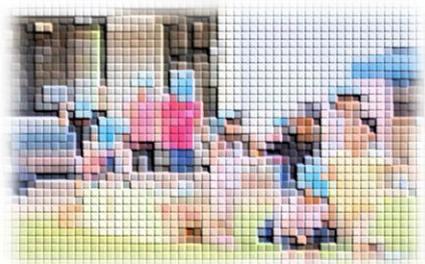
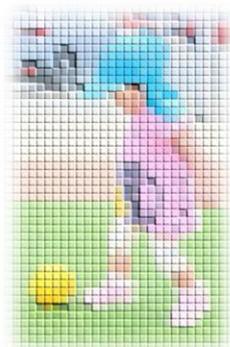
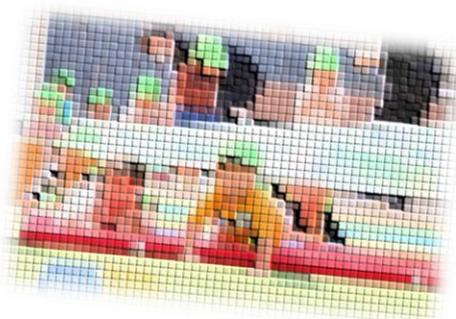
四番目のポイントは、「喜怒哀楽の表情が子どもに伝わることに気を配ること」です。私たちが表情豊かに子どもと接している時と、無表情で接している時の子どもの反応は歴然と差が出てきます。無表情で子どもに接していると子どもは不安を感じて泣き出してしまうこともあります。大人の表情はアイコンタクトやスキンシップと同じ様に子どもに愛情や安心感を与えます。子どもたちには私たち大人が肯定的に受け止めてもらえるように感情豊かな表情で接することが大切なのです。

また、子どもに対する表情だけでなく、他の人やものに対する表情も子どもが見ていますので、気をつける必要があります。1歳頃からは社会的参照という能力があらわれてきますので、他の人に対して大人が警戒していると子どももその警戒を感じてしまうので注意が必要です。

五番目のポイントは、「表情と感情を一致させること」です。子どもは生後 8 カ月越えると人の表情に対する理解が進み、自分の行動の良し悪しを大人の表情などから読み取ることができるようになります。そのため、子どもを褒める時、叱る時などにはその感情に見合った表情をすることが大切です。感情と表情が一致していなければ、子どもは混乱し、気持ちが伝わり難くなります。ストレートなわかりやすい表現が大切なのです。

最後の六番目のポイントは、「子どもの目に入る場所で愚痴や人の悪口は言わない」ということです。当たり前のことですが、子どもたちのいる前で、仕事や家庭の愚痴や他の人の悪口などを話すことは避けなければなりません。子どもたちは 5 歳になると神経系統の 8 割が成長し、言葉が理解できなくても話している大人の表情などから話の内容のニュアンスを理解すると言われています。したがって子どもの近くで子どもに聞かすことができないような話はしないように気を付けなければなりません

一方、大切なことは子どもの目を見て話しかけると、言葉は分からなくても伝えたいことは子どもが感じ取って、大人の気持ちに合わせて笑ったり喜んだりします。感受性豊かな子どもの成長には、愛情に満ちた大人の言葉が大切です。それらの言葉に出会うことによって子どもは心豊かに育っていくのです。



未満児クラスの運動会の様子です。今年の運動会も楽しみにしておいてください。

※写真提供:ミサオスタジオ